常磐毎日新聞
一月七日夕刊
定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 郵稅五錢
廣告料 寄通一行五拾錢 場所指定一行七拾錢
日曜・祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 福島縣いわき郡平町三五 坂本忠治
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社（世話人印刷）東京 日〇二〇〇番

天氣豫報

今晩は北西の風 晴後小雨模様
明日は北西の風 晴

顔の父何處！

病を苦に二十年前 山中へ隱棲した

親を慕つて捜索願

日立製作所職工が

病める顔の父を探して—茨城縣日立町大字宮田字仲町日立製作所職工見代義治(二七)さんは今七日平署へ實父の茨城縣久慈郡袋田村大字南田氣見代寛治(四九)の捜索方を願ひ出た、寛治さんは二十年前肺病だと言はれ山の中に住めば病氣が癒るとの迷信を信じて山間生活をするために家出したがその後山間で木樵生活にも耐へられる樣に病氣も快癒して來たとの風の便りをきいたのを最後に漂然と行方を晦ましてしまつたので極力行方を捜したが皆目判らず思案に暮れてゐたところ舊磐城國茨城縣と茨城縣多賀郡の縣境通稱〝ミノツ山林〟で白髮の寛治に逢ひ伴に逢ひたいと言つてゐるのをきいたと言ふ人があるので若しや平地方に入りこんでゐるのではないかと捜索方を願出たものである

慘忍な連子殺し 殺人並に放火罪で

けふ平支部の豫審へ

犯行後一ヶ月振り

この子さへなければと淺薄な考へから内妻の連れ子を撲殺して屍體を燒却鬼神も顔をそむける樣な慘劇を演じた田人村大字旅人字前山國有林内製炭業舞木長三郎(三六)はこの程犯行後約一ヶ月振りで植田署から送檢され大臨檢事取調べの上〃殺人並放火罪〃で起訴平支部の豫審に附された

同人は先妻との間に十三の男兒と十一の女兒をもうけたが數年前離別して二年前耶麻郡の山中で炭燒に從事中現在の妻と知り合ひ内緣關係を結んだものゝ極度の生活難から先妻の子は奉公に出し田人國有林内に三人で暮してゐたが何時も連れ子のことから夫婦間に口論が絶えず當日も夜明け早々に口論を始め犯人はこの子さへゐなければ夫婦は圓滿に行くのだと傍にあつた柄の三尺棒で頭部を毆打即死せしめた上小屋に火を放つて犯跡を晦さんとしたもので共犯關係があるのではないかと見られてゐた妻リヨは植田署の取調べの結果一先づ共犯關係はないものとして身柄を釋放された

五百九人の增加

客年中の平人口動態

平市に於ける客年中の人口動態は出生一千五十人死亡五百四十一人で結局五百九人の人口增加を見た譯で婚姻は四百五十一組離婚二十五組であるこれを前年に比較すると前年出生は一千三十四人で十六人增、死亡は五百十八人の二十三人增結婚は三百八十六組で六十五組の增離婚は三組の增を見せてゐる（前年比は平窪も計算）

各小學校の書初展

市内第一、第二、第三、第四各小學校兒童の書初展覽會は來る十日から三日間一齊に開催され優秀兒童には例年通り夫々賞狀が授與される筈

銃後の最前線に 強化の堅陣成る

城山青年團の活躍

年頭早々運動開始

時變下に新春を迎へた市内城山青年團ではこの非常時局の新年こそ青年團が銃後最前線に活躍しなければならない時であるとものすごい張り切り方で大日本聯合青年團の指令に基き時局對策委員會を設け左の役員

委員長 東條 祐英
常任幹事 松浦 誠
訓練部指導官 新妻熊男少尉
修養部長 泉田 亮
財政部長 鈴木 兼好
整備部長 落合 富司
事業部長 佐川 充宏
情報部長 明智 忠吾
訓練部長 袴塚 豊次
体育部長 中澤 嘉市
理事 田村 英顯 外十三名

を選任して團の擴充強化を計り銃後强化運動として區内出身應召兵に各神社の御守護符を贈り團員參列の上各社頭で武運長久祈願を行ひ應召軍人家庭慰問應召軍人に遺家族の寫眞を贈る等その活躍目覺ましきものがあり各方面から好評を博してゐるが松浦幹事は『まだ〜〜團の仕事はこれからです有意義な新年を迎へ團員一同張り切つて銃後强化運動に從事して各人共色々と計畫を練つてゐますから今後の期待に俟つて下さい』と語つてゐる

平は縣下第三位

戸數割の賦課額

近縣では宮城縣が最高

我々三大義務の一つである納稅に對して當局では過般納稅デーを縣下一圓に施行して納稅の如何に重大な責務をもつものであるかを認識させ積極的に納稅思想の强化に努めた結果滯納率も漸次低減して好成績であるが我々の愛に直接響いて來る市稅戸數割に於て平市は一般に高率であるとの聲が旺んなので之を縣下四市の平均額に比較して見ると昭和十二年度平市戸數割平均賦課額は十八圓十五錢で縣廳所在地の福島は十八圓二十錢で先づ同率と言ふところ新興工業都市郡山は工場誘致その他都市計畫を着々整備してゐる故か縣下一の高率で十九圓六十八錢若松は城下街で往昔の夢を追ひ産業部門の著しい發達躍進もない故か十六円九十七錢で結局平市は四大市中第三位を占め高率とは先づ云へないところであらう更に他縣の平市に匹敵する都市と比較して見るならば宮城縣鹽釜市は二十四圓九錢石卷市三十三圓五十錢で相當な高率を見せ宮城縣は高率を賦課されてゐるものと見られ水戸市は十一圓七錢栃木縣栃木市は十二圓八十七錢、米澤は十七圓六十八錢千葉縣市川市は殆ど平市と同時に市制が施行されたのであるが十二圓二十九錢で氣候の關係長さ十七八糎幅十糎許。昔近くに烏館城のあつた時分、城の奥方が多勢の侍女と共に此處に下りて來て、この石を神として信仰したといふ。

○梵字石

周圍八間足らず高さ九尺餘横三尺許の石で、川前村上桶賣鈴坂にある。卒塔婆の形をしてゐる。梵字石とよぶのはこゝの中央石に彌陀三尊の梵字を刻してあるからで空海の書だなど稱してゐる。鎌倉時代の供養塔の類かといふ。

石城の石の傳說 (1)

磐女鄕土研究部調査

（一）民間信仰・緣起傳說

○水石

水石は永戸村水石山頂にある高さ二間周圍九尺許の石で注連繩が張られ、中に三尺程のくぼみがあり水が溜つてゐる。旱天にも涸れた事が無く雨が降つても溢れたのを見ない。水石の名もそこから出たので、旱天時の布を浸し或は水をかき廻せば雨が降るといひ昔から雨乞の代表的な場所であつた。海上より望めば夏井川に沿うて水石山頂まで常に雲氣がたゞようて居るとの事だ。水石が雲を呼ぶのであらうか。龍宮の乙姫が難産の折、岡伽井の藥師の力によつて無事なる産を得たので御禮として海より龍燈を山へ奉り、又藥師は乙姫の御陰で眼病が直つた御禮として水雲を海に下げることになつたのださうである。

○龍口の石

草野村北神谷日中の山に龍口といつて、大きな口を開いた龍頭の如き石がある。この石の口の方に當る部落は皆こゝに吸ひ込まれるといふので何時も貧乏である。尾の方に當る部落はしもだめるとて金持になり富豪が多い。袖作にも龍口の石があり、下片寄の野々目にもたにつ樣とよばれる龍口の石がある。

○硯石

内郷村堀坂なる硯石は二十五糎程で硯の形をしてゐる。溜つてゐる水を硯水といひ旱の時でも涸る事がない。この水で文字を習ふと上達するといふ。入遠野村硯石があり この水をかき廻せば降る時は百日照る時も百日といふので恐れて手を觸れぬ。

○雨降石

川前村上桶賣の田圃中にある直徑三尺許の石で、これを汲んで加持すれば降雨を見るといふ。小名沒町古港にもあり、弘法大師巡錫の折獨鈷もて岩をうがち靈水を出した。

○不動堂の石

磐崎村上湯長谷に祠あり卵形の石が置いてあるのでこの石に水を注ぎかけても同じ結果になるといふ。縱横九尺許の石である。

○獨鈷石

岡伽井嶽藥師堂の後にあり、石にくぼみがあり水がある。百日旱天にも涸れぬと。雨乞の時にこれを汲んで加持すれば降雨を見るといふ。小名沒町古港にもあり、弘法大師巡錫の折獨鈷もて岩をうがち靈水を出した。

○不動堂の石

磐崎村上湯長谷に祠あり卵形の石が置いてあるのでこの石に水を注ぎかけても同じ結果になるといふ。縱横九尺許の石である。

鳴呼古泉大尉 (一)

平市會議長 野崎滿藏

古泉大尉戰死の報に接しまして、嚴父延隆君としては憂慮措く能はざるものがありましたがそれは兒を亡くした悲しみでも無く、又後繼者の絶えたる爲めでもありません何んであるかと申しますると、即ち戰死當時の狀況が皆目不明であつた事であります武運拙くして休息中流れ丸に中つたのではあるまいか背後に彈を受けたのでは無からうか、人に顔向けのならぬ樣な戰死では無からうかと、眞に其苦衷言ひ知れぬものがあつたのであります。幸ひ嚴父延隆君が勤務の滿洲奉天には、故大尉無二の親友にして、同期生である菅原中尉が居りましたので、委細電報にて調査方を、戰地原隊へ依頼したのでありました。然るに故大尉の靈の導きにや、土陽新聞記者にして、且つ日本童話協會の講師である深瀨薫君が、皇軍慰問として、北支戰線を南下しまして保定城までたどり着いたのでありますが、保定城を距る約百メートルの地點に於て部下らしき兵士達が或る遺骸に紅き野花を捧げ合掌禮拜、聲を呑み涙を忍んで回向する光景を見て、これは吃度部下を愛し、又部下の信任を得たる將校であらうが是非生前の履歷や、其一部始終を知りたいものと立去り兼ねて居る所へ、折よくも東京朝日新聞の從軍記者長谷川君に逗ひ委しく其の當時の狀況を知る事が出來、一入痛ましさの念がいやましたと云ふ事でありまして、深瀨君は保定よりの歸途わざ〜〜奉天なる嚴父の許に立寄られ、長谷川記者の物語りや、又當時の狀況を委しく話してくれましたので、漸く愁眉を開いて、安心されたそうであります。

只今少しく其の當時の狀況を申し上ぐれば、總攻撃を開始いたします迄に、或は斥候に、或は偵察に、大膽にも敵前數百米の地點まで、匍匐して其任務を遂げなどして居られたのであります。九月十二日、叔父佐々木芳一氏に宛てた端書にも其の當時の風景をスケッチして

第一線近くに偵察に行けば、敵が苦力(人夫)を使つて、盛に陣地構築中の話聲が明瞭に聞ゆ、顔を出せばボント狙撃をされる。土堤を隔て〜敵は防備に餘念なし、我々は攻撃に餘念なし、聲の聞ゆる程度に近づきながら。畫ねしたり洗濯したり沛雨到らんとして風樓に滿たず

冥土の入口にて

我維武者隊長

とありまして、總攻撃前既に相當の苦闘を續けて居られつゝも、沛雨到らんとして風樓に滿たす、即ち掉々たる餘裕の存するを諷刺したものでありませう。

滿洲北支へ

慰問袋發送

平市が九百個贈る

平市では過般十一月聖戰に活躍してゐる皇軍勇士慰問のため北支へ慰問袋約五百個を送つたが更に今度は北支並に滿洲駐劄の皇軍に慰問品を發送することゝなり十日午後一時から市會議事堂に在郷軍人會青年團國婦平支部その他各關係者學校長等が集合打合協議を行ふが發送は二月一日現地へ向つて行ひ北支派遣軍には五百四十三個滿洲駐劄軍には三百八十八個の豫定である

平市の委員會

豫算計上協議

平市の各委員會は大休方記の日割で開き昭和十三年度豫算その他について協議する

十六日傳染病委員會
十七日水道委員會
十八日土木委員會
十九日學務委員會
二十日警備委員會

前科二犯の暴れ者 住居侵入で檢擧

餘罪！酌婦强喝も發覺

湯本町上町無職前科二犯永井七太郎(四七)は去る二日午前二時頃同町飲食店伊勢屋方に至り戸を破つて上り込み酒を呑ませろと强要し住居侵入で平署に檢擧されたが同人は昨年末にも湯本町料理店みどりに登樓同家の酌婦から皮膚病を感染されたからと同家の内緣の夫から十圓を强喝したことがある暴れ者である

古物商違反 署式で十圓

水戸原町東亞商會内古物商李守方右(三〇)は今七日平區から古物商取締法違反で略式罰金十圓に處された同人は舊臘二十四日頃無免許で管轄外の赤井村大字鹽田藥谷長吉氏外五ヶ所から中古鐵屑鉋金ビール壜等を買受けたものである

市内各校 始業式

市内各中等學校及び各小學校の第三學期始業式は明八日一齊に行はれ各校共午前八時校舍内外の大掃除の後始業式を擧行、校長並に各クラス擔任教師の訓話あつて磐中、平商は直ちに授業を開始する筈であるが磐女並に各小學校は日曜明けの十日から本格的に授業を行ふ豫定である

下駄を盜んで 平署に御用

草野村下神谷字六十枚富岡盛(三六)は舊臘三十一日午後六時半頃神谷村中神谷雜貨商佐藤幸平方に立寄りモツキリ酒を呑み勘定を支拂ひ家人が奥に入つた隙を覗ひ店頭からお茶と下駄を搔拂ひ逃走し平署へ

水道斷水

平市上水道は四軒町地内の制水辨取付工事のため今七日午後八時から翌朝二時まで四軒町北目町の一部を斷水する

腕時計を盜む

炭礦の會計助手

赤井村福島炭礦會計助手渡邊秀三(二二)は去る十一月下旬の夜同炭礦元所長菊池德太郎氏方同居人戸田政美君の腕時計時價十四圓相當を窃取してゐたこと發覺平署へ檢擧

長橋青年役員

市内長橋町青年團はこの程新年會を兼ね總會を開催左の如く役員を改選した

平市人事

回出生

△鎌田町五三大原安助氏六女正子さん
△田町五新妻政太郎氏長男敏一君

回婚姻

△月見町二八白土ハルユさん(二七)と農間村下町二二四家福平君(二七)

回死亡

△紺屋町二九（川部村大字三澤字北ノ作居住）白岩勝榮君(一)
△團長兼修養部長植頭憲太郎△副團長兼火防組長關内正平△庶務部長小齋一郎△會計部長小野誠三郎△第一班長猪狩泰治△第二班長室越鶴次郎△第三班長兼火防副組長興津憲次郎△第四班長根本清次△第五班長武藤一義

耳鼻咽喉科專門

大和田醫院

平市南町一六(電話一七〇番)

病室增築、手術室完備

醫學博士 五十嵐雄二

産婦人科

平市新川町 電話三六九番

産婦人科專門

根本醫院

平市南町五二【電話三四番】 根本莊次郎
平市田町六九 根本貞雄
（手術室完備）
（入院隨時）

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお奬め致します
入會隨時 喜多流謠曲仕舞 白土會
平市田町六九 電話一二七番

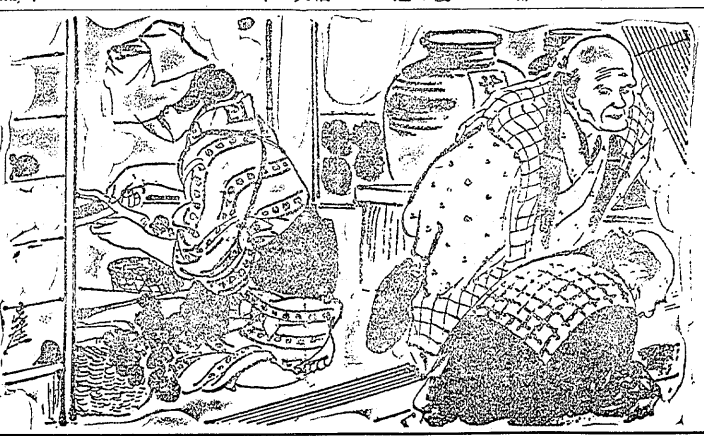
今晩の部

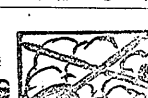
JOHK

▼後八、〇〇 人情噺「芝濱の革財布」桂文治
▼後九、〇〇 時事解說「國民政府の改組と長期抗戰外」務政務次官松本忠雄

明日の部

▼後〇、〇五 土曜コンサート喜歌劇「ホフマン物語」抜萃曲外コンセル・ボビュレール
▼後七、三〇 講演（京都より）「歌舞伎の美しさ」文博太宰施門
傷病將士の夕 歌謠曲「護れ日の丸」兒玉好夫外
▼後八、二五 義太夫「近頃河原の達引」（堀川の段）竹本素女
▼後八、四五 二人漫談（虎）福地悟朗丸山章治
▼後九、〇五 浪花節「大石東下り筑波雪」
▼後八、〇〇 歌謠曲「護れ日の丸」兒玉好夫外





……三三七……

鐵砲隊組織（一）

それは保安隊に組織されに早くから『穢ケ壓』が用ひられ、次第に紀伊國に生れたもの、ゆゑから鐵砲の組織が盛になつたにも拘らず、また鐵砲にこれを用ひたのも、根來寺の僧侶が早かつたからでもある。

だから、天下が德川幕府の手に歸して、紀州五十五萬石が御三家の筆頭である大納言頼宣の治めるところとなると、武備に非常な興味をもつてゐる頼宣公が、自ら口傳をとばして鐵砲の研究を進めるもの共に奬勵した。そして、柳生但馬守宗矩の政策の一つである、『根來衆』も、最初は大納言頼宣の發議によつて、極端樣に鐵砲を用ひたりするべし

御尋ねばかりではなかつた。和歌山城下はもとより、城ところの鐵砲なり火薬の製ずまでに高札が立てられた。だから、士農工商によるとはなく、この時で持切つてゐた。そして、熊野の山奥からは鐵砲をよくのばした者の六尺以上もある『穢ケ壓』を下げて、鐵々と、伏城下に歩きつて來たのであつた。

秋の陽の勝高く輝いて、赤い鐵砲が鐵子を撃つやうに野面をとび廻つてゐる日中、和歌浦街道の根上り松の茶屋では、旅人や城下の商人や馬子が茶を喫りながらしきりに鐵砲を仕合つてゐる。

『旦さんよ、鐵砲方のお話もさう

『今になると彼の鐵砲が非常に相成つた』

と、此地大納言頼宣は彼らの重寶ともを鐵砲で苦樂してゐるやうになつた。

然樂を用ひる鐵砲の恐ろしさは弧矢や刀槍の力が遜く及ばないことをしみ〜と知つたので、特に成る野心を鐵砲してゐる大納言頼宣は、鐵砲の偉力によつて、戰爭に一大革命を呼ばうとしてゐるのであつた。

かういふ衛れが、紀州藩の津浦濱々から熊山濱の間まで傳された。

一、年齡十八歳より四十歳に至る者にして穢ケ壓鐵砲の術に長けたる者は、速かに和歌山城下大手組頭の門まで屆出づべし

一、本人鐵砲術の功績顯著の後、當藩の方に召出され成れる者は、特別の待遇をもつて十分に恩賞に相應ること、[illegible]

白柳劍風記

大島多慶夫作
井川洗涯の畫
（第上映上演脚色）
布施長春畫
（第）村瀬春映畫

家庭

母親に感謝する 習慣をつけよ

離乳の時は、たゞ乳から離すだけでなく、いろ〳〵の習慣をつけてやるのが大切です。

何時でも時間はすに食べるとか、非常に不衛生なたべ方とか、好嫌が多いとか、いかにもわがまゝをするとか云ふ場合には根強くきびしく矯正しませんと生涯の不幸でございます

躾をしつけをしながら育て、育てかなければなりません。例へば、

砂糖分はどれだけ必要か

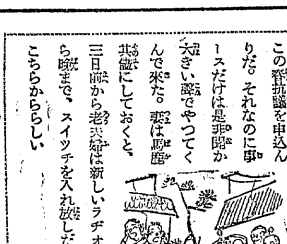
過剰はかへつて毒

砂糖は疲労を直し成長を助けるなど、人體になくてならぬ必要な品ですが、一定量以上を超えて攝取されると必ず病氣を起します。あらゆる病氣の七十五%がこの砂糖の過剰からであると云はれて居ります。これについてはドイツの醫學者ブラウフレは白砂糖は有毒のものであると云つてをります

詰り砂糖を過剰に攝取すると、人體のカルシュウムが破壊され、子供ならば骨格が弱く、ひよろひよろと骨ばかり高い子供が出來てしまします

日支事變の種々相

ラヂオ



隣の家の老夫婦はラヂオがうるさいから低聲にしてくれと、この數日間を申込んりだ。それなのに聞かず知らぬ顔でやつてくんで來た。數は馬鹿共鹿にしておくと、三日目から老夫婦は新しいラヂオを買つて來たそれが朝から晩まで、スイッチを入れ放しだ。抗議を申込むのは今度はこちらからだらしい

黒色火藥

ところで、かの歐洲大戰當時、もつとも廣く且つ多量に使はれた黑色火藥はといふと

火藥を低溫する確率が七五%に可燃體としての木炭が一五%、それに硝水性清火藥としての硝酸が約一〇%まぜられてをり

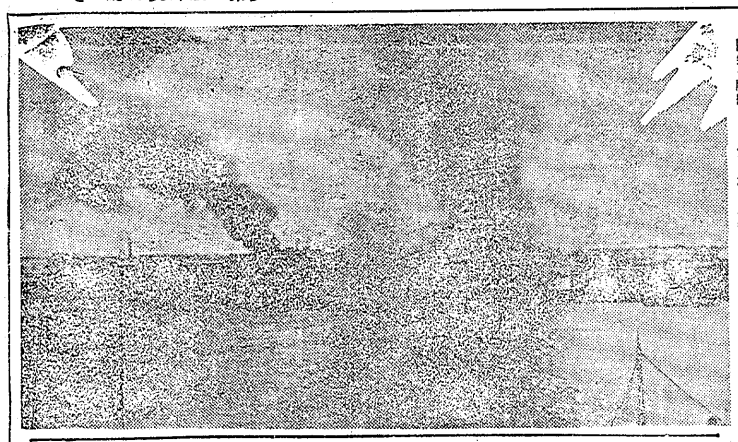
俗に有煙火藥といはれてゐますが有煙が無煙火藥になつた今日でも火のつく速度がきはめて速いので藥は依然その一要な役割をつとめてゐます

女の命、髮の毛が火藥の原料に

但これは歐洲大戰で

ドイツでの出來事

日本は大丈夫



かの歐洲大戰では獨逸軍に封鎖されて火藥迫の原料にこまつたドイツが苦しまぎれに婦人の髮の毛をうけてこれを火藥の原料としたといひますが、果して女の髮は火藥の原料となり得るものでせうか？もしなり得るとすれば、どういふ化學過程を經てつくられるのでせうか、以下歐洲家の意見を御紹介いたします

「まづ絹糸と毛髮との元素分析を行つてゐてその違ひをしらべてみますと

絹糸	
▲炭素	四七・四七%
▲水素	六・三七%
▲窒素	一七・八〇%
▲酸素	二八・〇一%

毛髮	
▲炭素	五〇・〇〇%
▲水素	七・〇〇%
▲酸素	二二・二六%
▲窒素	一五・一七%
▲硫黄	二・五%

で、この二つの間の著しい相違としては毛髮の中には絹糸の場合よりも遙に多量の硫黄が存在してゐることが容易に發見されます

毛髮のみ黄

そしてこの毛髮の中の硫黄の含有量は、下等動物よりも高等動物の方がずつと多いのです、たとへば

▲鳥羽	二・五九—
▲豚毛	三・一六%
▲山羊	三・五六%
▲綿羊	三・三一%
▲馬毛	三・六八—
▲兎毛	三・五六%
▲女性毛	四・〇一%
▲小兒毛（女性）	五・三四%
（以上は數種毛百本の平均）	五・三二%

量は、下等動物よりも高等動物の方がずつと多いのです、たとへば

▲鳥羽	二・五九—
▲豚毛	三・一六%
▲山羊	三・五六%
▲綿羊	三・三一%
▲馬毛	三・六八—
▲兎毛	三・五六%
▲女性毛	四・〇一%
▲小兒毛（女性）	五・三四%
（以上は數種毛百本の平均）	五・三二%

で、これをみても明らかです、しかもこれ等の中にふくまれてゐる硫黄はワケなく分離することの出來るものです

ヒビやアカギレのお藥

つくりかた

▲藥方藥　ヒビやアカギレの藥

防腐ベルツ水の作り方は常性カリ（炭酸カリにても可）二瓦、グリセリン、アルコール各百瓦、蒸溜水二百瓦にベルガモット油一、二滴をおとしまぜあはせます

▲塗方藥　ひどい場合にきく藥の作り方は炭酸クレオソート、カンフル末を各一グラム、ベルーバルサム五グラム、黃色ワセリン五十瓦を用意し、まづ炭酸クレオソートとカンフル末をよく研和し、次でベルーバルサムとワセリンをくはへて練合せます

この中へ粉末にした藥荷酸若くは藥荷酸を少宜入れますと藥品に刺激された時や足の疲れた時にぬつて摩擦すると大變効果があります（慶應學士　入山榮藏氏）

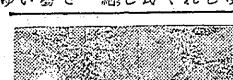
○

ヒビ〳〵の藥むやうなひどい場合にきく藥の作り方は炭酸クレオソート、カンフル末を各一グラム、ベルーバルサム五グラム、黃色ワセリン五十瓦を用意し、まづ炭酸クレオソートとカンフル末をよく研和し、次でベルーバルサムとワセリンをくはへて練合せます

この中へ粉末にした藥荷酸若くは藥荷酸を少宜入れますと藥品に刺激された時や足の疲れた時にぬつて摩擦すると大變効果があります（慶應學士　入山榮藏氏）

店員十三

店主自ら書下した本を修養書として毎朝讀む



東京・京橋の某理髮店には男女四十人近くの從業員が居るので店ではすこぶる店員指導に重心してゐる今度「店員指導」といふ小冊子を店主自ら書き記し店員の守るべき心得の數々を認へてゐる、毎朝朝禮の際にこの冊子をひもとかせて讀ませ代りにして店主がじゆんくとして說く、內容が充實し心に滿ちてゐるのですこぶる熱心なやりかたで店員はこの小冊子に必ず氏名を記入し日常の修養書とさへしてゐる、その小冊子中の十條を紹介しよう

第一條　××は第一流の理髮師であり、同時に立派な指導者であると自負してください

第二條　××理髮店員としての誇りを持ち、技術の練磨をつんで下さい

第三條　技術の練磨とともに人格の向上に努めて下さい

第四條　忠實なる日本國民の一員たるを自覚して修養をつとめてください

第五條　店員は常に自己の人格の向上に努めて下さい

第六條　店員は常に自己の人格の向上に努めて下さい

第七條　職業に精進して下さい

第八條　職業を樂天的にして下さい

第九條　どんな場合にも感謝お客様本位です、お客様を主としてください

第十條　店員は父母、兄弟、夫婦、子供はいかにも父母、兄弟の感しがあるべきであるとしてこの十條を掲げてゐます

愛慾非常線

軍國海軍小說

寺崎洋々淵作　松村秀彥畫

（森鷗數上數及上長）

……四、八四……

氷解（一）

『はい何うも來動が腑に落ちませんので當子は急いで後を追ひかけましたが果然怪しい事實を發見しましたので、秘密裏も取る物も取りあへず出かけましたから御安心下さいまし』

水島少將は微笑を含んで

『さうか、然し、何うしてその事實と云ふ證拠が出來たのぢや』

『それは此の書簡に乘り紛んでゐました一等兵曹吉村三郎が此の向島に居りますので、兄さんが吉村に托して小野閣下にあてた封書の送達を依頼致しました處、吉村は何うも兄さんの當時及聘作が怪しいと云ふので、その封書を責任を負つて開封致しました。下等動物よりも高等動物の方がずつと多いのです、たとへば

▲鳥羽	二・五九—
▲豚毛	三・一六%
▲山羊	三・五六%
▲綿羊	三・三一%
▲馬毛	三・六八—
▲兎毛	三・五六%
▲女性毛	四・〇一%
▲小兒毛（女性）	五・三四%
（以上は數種毛百本の平均）	五・三二%

量は、下等動物よりも高等動物の方がずつと多いのです、たとへば

▲鳥羽	二・五九—
▲豚毛	三・一六%
▲山羊	三・五六%
▲綿羊	三・三一%
▲馬毛	三・六八—
▲兎毛	三・五六%
▲女性毛	四・〇一%
▲小兒毛（女性）	五・三四%
（以上は數種毛百本の平均）	五・三二%

で、これをみても明らかです、しかもこれ等の中にふくまれてゐる硫黄はワケなく分離することの出來るものです

黒色火藥

ところで、かの歐洲大戰當時、もつとも廣く且つ多量に使はれた黑色火藥はといふと

火藥を低溫する確率が七五%に可燃體としての木炭が一五%、それに硝水性清火藥としての硝酸が約一〇%まぜられてをり

俗に有煙火藥といはれてゐますが有煙が無煙火藥になつた今日でも火のつく速度がきはめて速いので藥は依然その一要な役割をつとめてゐます

ヒビやアカギレのお藥

つくりかた

▲藥方藥　ヒビやアカギレの藥

防腐ベルツ水の作り方は常性カリ（炭酸カリにても可）二瓦、グリセリン、アルコール各百瓦、蒸溜水二百瓦にベルガモット油一、二滴をおとしまぜあはせます

▲塗方藥　ひどい場合にきく藥の作り方は炭酸クレオソート、カンフル末を各一グラム、ベルーバルサム五グラム、黃色ワセリン五十瓦を用意し、まづ炭酸クレオソートとカンフル末をよく研和し、次でベルーバルサムとワセリンをくはへて練合せます

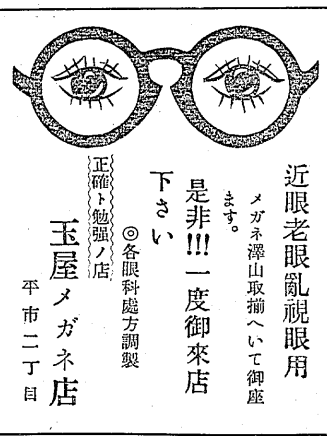
この中へ粉末にした藥荷酸若くは藥荷酸を少宜入れますと藥品に刺激された時や足の疲れた時にぬつて摩擦すると大變効果があります（慶應學士　入山榮藏氏）

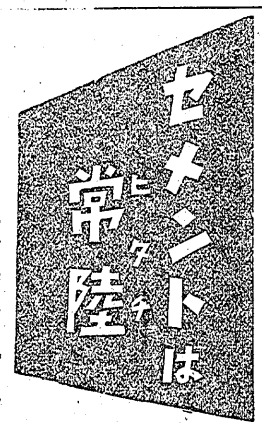
御得意様への御禮に！
パーマネントウエーブは……
今や世界的流行であります……
▲時間の經濟と能率增進
▲時代の要求するパーマネント
▲今が絶好のチャンス
（セットの技巧）
現狀維持では……
時代に取殘されませう
銃後を守る御婦人方への大サービスに
御婦禮御氣付
和洋結髮
オゾン美顏術
美爪術
白赤毛染
最新の美容法を研究しその奥義を修得致して參りました
お値段——四圓全部、三圓普通、
水野化粧院
水野冬子
平市驛前電六七八番　自宅電五二五番

阿部藥舗
平市田町

一齒科一般　保存科補綴科　纖讀架工科
齒列矯正科　小兒齒科　齒槽膿漏科
一口腔外科　一レントゲン科
中野齒科醫院
平市田町（松月堂向ヒ）
電話五〇九番
院長　日本齒科醫學士　中野悳次
日本齒科醫學士　西川誠

近眼老眼亂視眼用
メガネ澤山取揃へいて御座います。
是非!!!一度御來店下さい
◎各眼科處方調製
正確ト勉强ノ店
玉屋メガネ店
平市二丁目





御用命は！
大谷建材店
平紺屋町　電話三六六番

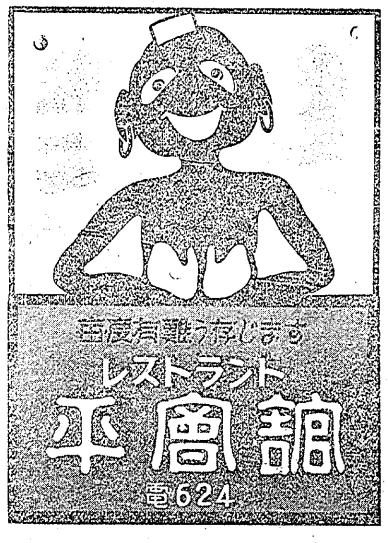
（夜間診療）
胃腸病
內科　胃腸病科
花柳病科　性病科
皮膚科
專門
松村胃腸性病醫院
平市南町（電話一〇七番）

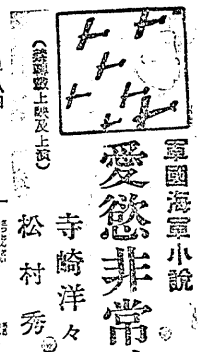
お惣菜用、さつま揚、吉原揚……
天孫屋
平市一丁目　電話一四一番

かまぼこ、ちくわ、
製造

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士　鈴木正男
平市田町（藤田女學校前）
電話五八番

食洋と酒良
經濟位本




旅人宿舘
私は平市出生ですから特に鄕里の皆様方の爲に御便利を圖ります
主人　比佐棟雄
東京上野驛前（下谷郵便局横通角）
電話下谷六七七番

各種木工品
神棚、家具建具製作卸
大量の御註文は特に勉强致します
橋本屋木工場
平市新川町（電一六三番）
◎見習徒弟入用優遇す給料面談

石炭
コークス
豆炭
阿部石炭店
平驛前　電三七七番

國旗と提灯
平四スカヤ
電九五
花柳病科　外科
木村外科醫院
平市六丁目橋際　電話三〇九